

第2編 計画の目指すもの

第1節 スローガン

みんなでつくろう 四季とふれあう美しいまち

『スローガン』とは、町民・事業者・町が協力して環境基本計画を推進していく上での合い言葉であると同時に、環境に対する価値観や考え方を表現した幸田町全体を対象とした目標です。上のスローガンは、5項目から成る「幸田町民憲章」の最初の項目である「緑豊かに、水清らかに、みんなで美しいまちをつくりましょう。」を踏まえて設定しました。

『スローガン』が表現している内容は、以下のとおりです。

みんなでつくろう

都市・生活型公害や廃棄物問題、地球温暖化をはじめとする地球環境問題に対処し、幸田町において環境の保全と創造を図るためには、町だけではなく、全ての町民や事業者が、それぞれの立場に応じて役割を公平に分担し、自主的、積極的に環境の保全と創造に取り組むことが不可欠です。また、取り組みを効果的に推進するためには、各々が個別に取り組むを進めるだけでなく、お互いに考え方や立場の違いを認めつつ、協力して取り組みを行うことが重要です。

「みんなでつくろう」は、「まちの全ての人々が、それぞれの役割のもとに、お互いに協力してよりよい環境の保全と創造に取り組む」ことを示しています。

四季とふれあう

幸田町は豊かな自然と、田園や鎮守の森等の良好で身近な自然に恵まれています。町民の多くは、これらをまちの最大の魅力であると感じ、今後も守り・残していくことを望んでおり、都市化にあたっては自然の保全との調和が求められています。まちを取り巻く山々は、市街地の周囲に広がる田園風景とともに、四季の変化を感じさせてくれます。また、人々の意識は、経済的豊かさの追求や機能優先の考え方から、心の豊かさや生活の質的充実を求める方向に変化し、高齢者をはじめ全ての人々がゆとりや心地よいやすらぎ、うるおいを感じ、気持ちよく過ごすことができる環境づくりが求められています。

「四季とふれあう」は、「豊かな自然と美しい田園風景に恵まれ、ゆとりとうるおいのある快適環境が創り出されたまち」を示しています。

美しいまち

よりよい環境の姿として、さわやかな空気やきれいな水、静かな環境、有害な化学物質による影響がないことは重要なことです。また、二酸化炭素やフロン類等、地球環境問題の原因となる物質の排出を抑制し、循環型社会を構築してごみを出さないまちを形成することは、将来の世代のためにも、わたしたち一人ひとりが果たしていかなければならない役割です。

一方、現在の幸田町には、ごみのポイ捨てや山への不法投棄、ペットのフン害等の身近な問題があり、これらの問題も解決していかなければなりません。

「美しいまち」は、「事業活動や日常生活による環境汚染がなく、二酸化炭素やフロン類の排出抑制等の地球環境問題にも積極的に取り組み、循環型社会が構築され、ごみの不法投棄やフン害等のない、美しいまち」を示しています。

春



幸田文化公園の枝垂れ桜

夏



広田川での川遊び

秋



野場の農地

冬



凧揚げまつり

第2節 望ましい環境像

よりよい環境は、町民・事業者・町が各々の責任と役割のもとで、お互いに協力して取り組みを推進することにより実現するものであり、そのためには「よい環境とはどんな環境か」という共通の目標をもつことが重要です。

目標となる「よい環境」は、土地がどのように利用されているかによって大きく異なります。さらに、幸田町が目指す「自然的土地利用と都市的土地利用の調和」を環境面から支援するためにも、いろいろな土地利用における環境面からみた望ましい像を明確にする必要があります。

そこで、町民・事業者・町が共通して目指すべき20年後の幸田町の環境の「理想の姿」を、以下の5つの『望ましい環境像』として掲げます。

さまざまな生き物が住む豊かな自然に恵まれ、自然とふれあうことができるまち

幸田町を取り巻く100～400m級の山々は、緑豊かな森林を形成し生物の生息場所となるとともに、美しい自然景観をつくりだし、人々にやすらぎを与えています。また、山の中腹に点在するため池や山から流れ出す川は、水生植物や魚、ホタル、トンボ等のさまざまな動植物が生育生息する環境を形成しています。

小中学生を対象としたアンケートや住民意識調査で、まちの望ましい将来像として「自然豊かなまち」、「みどりのまち」が支持を集めるなど、町民の多くは豊かな自然をまちの最大の魅力であると感じ、恵まれた自然環境を保全していくことを強く望んでいます。

一方、幸田町の経済的発展を目指し、町内において工業団地開発、市街地開発、幹線道路の整備等が計画されています。今後、幸田町が「持続可能な発展」を実現するためには、「自然の保全」と各種開発計画を含む「都市化」との調和を図ることが重要です。

そこで、将来にわたり、森林や水辺を良好に保ち、さまざまな生き物が住む豊かな自然に恵まれたくらしを次世代に引き継ぎ、やすらぎと豊かな心を育む、自然とふれあうことができるまちを目指します。



豊かな水と美しい田園風景のなかで、環境と調和した農業を受け継ぐまち

幸田町には農村を母体として発展してきた歴史があり、水田がまちの中央部から北部にかけて扇状に広がり、まちの北東部および南東部には畑や果樹園が分布しています。現在でも、純朴な農村のイメージを色濃く残しており、周囲の山々を背景に広がる田畑、田畑をうるおす河川、山裾に点在する民家と屋敷林、社寺林等で作りにだされる田園風景は、のどかで心をなごませてくれます。また、小中学生を対象としたアンケートによると、今後も農業が続けられることが望まれています。

一方、農業においては、農薬や化学肥料の適切な使用と健康な土づくり等、環境に配慮した農業の実施と安全で高品質な農産物が求められており、小中学生を対象としたアンケートでも、できるだけ農薬を使わない作物作りが大切であるとの回答が多くなっています。

そこで、将来にわたり、幸田町民のみならず、日本人の原風景ともいえる美しい田園風景を守り、育むとともに、農薬や化学肥料の減量をはじめとする環境と調和した農業を受け継ぐまちを目指します。



新田の農地

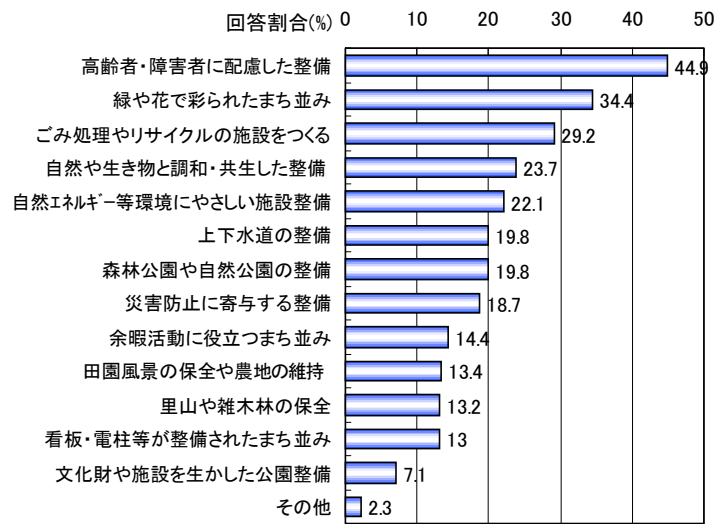


広田川

ゆとりとやすらぎの快適な生活空間で、環境にやさしい暮らしを営むまち

近年、人々の環境に対する要求は多様化し、生活する上での環境として、精神的なゆとりや生活の質的充実を得ることのできる快適な環境が重要なものとなっています。幸田町においても、これからの環境整備として「高齢者・障害者に配慮した整備」、「緑や花で彩られたまち並み」等があげられ、高齢者をはじめ全ての人がゆとりとうるおいのある快適な生活を送ることのできる環境づくりが求められています。

これからの幸田町の環境整備について



資料:平成12年環境に関する町民アンケート(幸田町)

一方、人々の日常生活や通常の事業活動は、知らず知らずのうちに環境に影響を及ぼし、その影響が「都市・生活型公害」として顕在化しているものもあります。幸田町においても、人口の増加や生活水準の向上にともない、自動車交通公害、家庭や事務所の生活排水等による河川の水質汚濁、近隣騒音等の問題が表面化し、安心して快適に生活するための環境を脅かしています。また、ごみのポイ捨てやペットのフン害等、生活の中でのルールやマナーを守ることにより解決できる問題も多く発生しています。

さらに、将来の世代が安心して快適な生活を送るためには、大量に発生するごみによる環境への負荷の増大や、地球温暖化をはじめとする地球環境問題の解決が強く求められています。これらの問題は、経済性、利便性を追求する大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会の一員である、わたしたち一人ひとりの日常生活による環境への負荷が積み重なって生じたものです。

都市・生活型公害やごみのポイ捨て等の問題、ごみの増加や地球環境問題を解決するためには、低公害型の交通体系、生活排水やごみの処理システム等をつくるとともに、町民一人ひとりがライフスタイルを見直し、環境や周囲の人のことを考えた生活をする必要があります。

そこで、将来にわたり、幸田町民が快適な生活を送ることができるよう、ゆとりとうるおいのある、安心して快適に生活できる環境をつくり、ごみの減量や地球環境のことを考えた環境にやさしい暮らしを営むまちを目指します。

きれいな空気と水のなかで、環境のことを考えた事業活動を行うまち

幸田町では、昭和40年代から積極的に進められた新規産業の誘致活動により工業が発展し、工業団地が形成されており、今後も新たな企業誘致が計画されています。また、町内には、小規模な工場が点在し、住工混在の生活空間を形成しています。

人々が健康な生活を送るためには、工場から発生する排出ガスや排水による汚染、騒音や悪臭等の公害、有害な化学物質による影響を防止することが不可欠です。小中学生を対象としたアンケートでも、工業地域において最も大切なこととして、公害の防止があげられています。また、幸田町では山裾に工業団地が形成されており、周辺の自然環境や景観との調和に配慮する必要があります。

さらに、工場による生産活動をはじめとする事業活動は、多くの廃棄物を発生させるとともに資源やエネルギーを大量に使用し、地球環境に大きな負荷を与えており、持続可能な事業活動を行うためには、その対策が不可欠です。

そこで、将来にわたり、幸田町民の健康な生活を守るため、現在ある工場はもちろん、今後幸田町に進出する事業者についても、有害な化学物質による影響や公害を防止してきれいな空気や水を確保し、自然環境等の周辺の環境との調和を図るとともに、廃棄物の減量や温室効果ガスの発生抑制等、広く環境に配慮した事業活動を行うまちを目指します。



坂崎工業団地



大規模小売店舗

未来によりよい環境を伝えるため、積極的に行動するまち

今日の環境問題の多くは、人々の日常生活や通常の事業活動による環境への負荷が原因の一つとなっています。

このため、環境問題を解決し、よりよい環境を未来に伝えるためには、町民・事業者・町の三者が、各々のライフスタイルや事業活動を見直し、互いに協力しつつ、責任と役割に応じて積極的に環境の保全と創造に取り組むことが重要です。そのためには、環境について関心を持ち、身近な環境から地球規模の環境にまで視野を広くもって環境の現況と課題についてよく理解し、世代や立場に応じてよりよい環境の保全と創造を図るための正確な知識を得ることが必要です。また、町民・事業者・町が、それぞれの立場で得た環境に関する情報、環境保全のためのアイデアや技術等を共有し、お互いの信頼関係を形成することが必要です。

そこで、将来にわたり、よりよい環境を継承するため、幸田町の全ての人々がまちの環境と地球環境についての正しい知識を持ち、その上でお互いに協力しながら、一人ひとりが積極的に環境の保全と創造に向けて行動するまちを目指します。



幸田小学校での
ビオトープを含む中庭づくり



住民団体による
リサイクル施設の見学